

いけだせんせい れんしよだいだいとりよう
「池田先生とゴルバチョフソ 連初代大統領」

1 枚目／けんかをしに 来ました！ （6 枚目の絵の裏に貼る）

1990 年 7 月 27 日。ソ連のクレムリン 宮殿でミハイル・ゴルバチョフ ソ連初代大統領と池田先生の 初めての 会見が行われました。会見の 冒頭、池田先生は 呼びかけました。

「きょうは、大統領と 喧嘩をしに 来ました！火花を 散らしながら 率直に 話し 合いましょう。人類のため、日ソのために」と。その 瞬間、大統領の 顔はパッと 明るくなり「私も率直な話し合いが 好きです」と 答えました。

ゴルバチョフ 氏は、ソ連 共産党書記長、ソ連初代大統領として「ペレストロイカ（改革）」を 行い、40 年以上続いたアメリカとの「冷たい戦争」を 終わらせた 指導者です。

和やかに 進んだ 会見で、ゴルバチョフ氏は池田先生の 理念への 共感を 次のように 語りました。

「ペレストロイカの『新思考』も、池田会長の 哲学の 樹の 一つの 枝のようなものです」と。

2 枚目／会談の 背景 （1 枚目の絵の裏に貼る）

池田先生は、世界平和のため、多くの 提言を 発表したり、世界のリーダーと 友情を 結び、国と 国との 橋渡しもしてきました。このような池田先生の平和への 行動に 関心をもっていたゴルバチョフ氏は、以前から池田先生に 会見を 要請しており、3 年越しで 初会見が 実現したのです。

日本の 一部週刊誌は会見について、学会側がゴルバチョフ氏と 会うために 大金を 投じた、などと 悪意に 満ちた 根拠のない 報道をしました。これに 対し、通訳として会見を 見守ってきたモスクワ 大学のストリジヤック氏は「会見の 実現に 尽力した 者は、世界の 安定（中略）のためにこの 二人は会わなければならない、という 信念に 基づいていた。そこに 金銭などが 介入する 余地は、まったくなかったことを 断言しておきたい」ときっぱりと 反論しています。

3 枚目／歴史的な 訪日実現 （2 枚目の絵の裏に貼る）

池田先生とゴルバチョフ 氏の 初会見当時、ソ 連の 最高指導者として 初めての 日本訪問への 期待が 高まっていたが、実現は 困難な 状況 でした。このような 中で 行われた会見で、池田先生は「桜の 咲くころか、秋のもみじの 美しい 季節に 必ずおいでになっていただきたい」と 語り、ゴルバチョフ氏は、「春に 日本を 訪れたい」と、公 の 場で 初めて訪日を 約束したのです。

この会談の 模様は、テレビや 新聞で 大きく 報じられました。そして、約束通り、翌 1991 年 4 月、ゴルバチョフ氏はソ連の最高指導者として初めて日本を訪問し、両国の 友好の 扉が 大きく 開かれたのです。

4 枚目／^か変わらぬ^{ゆうじょう}友情（3 枚目の絵の裏に貼る）

1991 年、ソ連の崩壊とともに、ゴルバチョフ氏は大統領の座を追われました。手のひらを返すように、非難中傷を浴びせる人々もいるなか、池田先生はゴルバチョフ氏に「これからです。これからあなたの本当の人生が始まります」と渾身の励ましをおくりました。

また、創価大学を訪れたゴルバチョフ夫妻に池田先生は「ご夫妻の偉業を、永遠に残しゆくために」と、「ゴルバチョフ夫婦桜」の植樹を提案しました。

最愛のライサ夫人が亡くなったときも、悲しみにくれるゴルバチョフ氏に、池田先生は懸命に励ましをおくりつけました。

時代が変わり、立場が変わっても、ひとたび結んだゴルバチョフ氏との友情は変わらなかったのです。

5 枚目／^{たいだんしゅう}対談集の^{はっかん}発刊（4 枚目の絵の裏に貼る）

ゴルバチョフ氏と池田先生は幾度もの出会いを重ねました。その対話の内容は、1996 年、対談集『二十世紀の精神の教訓』として結実し、世界中の多くの人々に読まれています。

そして 2008 年には、池田先生とゴルバチョフ氏の新たな対談「新世紀の曙」が開始され、各界の注目を集めています。

対談集について、池田先生は『後世のために』語り残しておきたいのです」と語られ、ゴルバチョフ氏は「全力を尽くします。将来にかけて一緒にお仕事ができる本当に光栄です」と応じています。

6 枚目／^{しんじつ}真実の^{ゆうこう}友好（5 枚目の絵の裏に貼る）

ゴルバチョフ氏は池田先生との数々の出会いを振り返り語っています。

「会長との出会いは、一回一回が“驚き”です。会長の情熱に、その生き方に、本当に感銘します。このような人物と友情を結ぶことができた運命に私は感謝したい」と。

池田先生は“真実の友好”について信念を綴っています。

「人との関係を、その場限りのものと考えれば、自先の利害という尺度で人を押し量ることになりかねず、真実の友好は生まれない。しかし、過去世からの深い絆によって結ばれているとの認識に立つならば、人への接し方は異なり、人間関係はより深いものとなる」と。

池田先生は、相手の立場や状況に関わらず、一貫して友情を大切にしてきました。この友情は、時を経るごとに黄金の輝きを放っていったのです。

決意など